



▲男女共同参画地域推進員会議の様子

活動の成果

- ◆まずは、自分自身の勉強になり、自分の意識が変わった。
- ◆今までできなかったことを、少し努力してみるように呼びかけている。
- ◆10年前と比べて、若い人から高齢者まですべての人が自立を目指しておられ、男女共同参画が定着しつつあると思う。

男女共同参画地域推進員は、市民の立場で、地域における男女共同参画の自主的、組織的な活動を支援するため、出前講座などによる実践活動をしています。男女共同参画地域推進員の皆さんに、これまでの活動を振り返っていただき、その成果と課題、今後の取り組みについて語っていただきました。

男女共同参画地域推進員に聞きました 「これまで」と「これから」

今の課題と今後の取組

- ◆子育てと介護をどうするかは、個人ではどうにもならないところまでできているのではないかと、社会や地域がどう関わっていくかが課題になってきている。
- ◆なかなか地域間や世代間で広がらなく、意識を変えるのは時間がかかるようだ。男女共同参画の取り組みが、若い人が地域に関わっていく「きっかけ」になればと思っている。
- ◆推進員をサポートしてくれる人が地域の中で増えてくれるとうれしい。

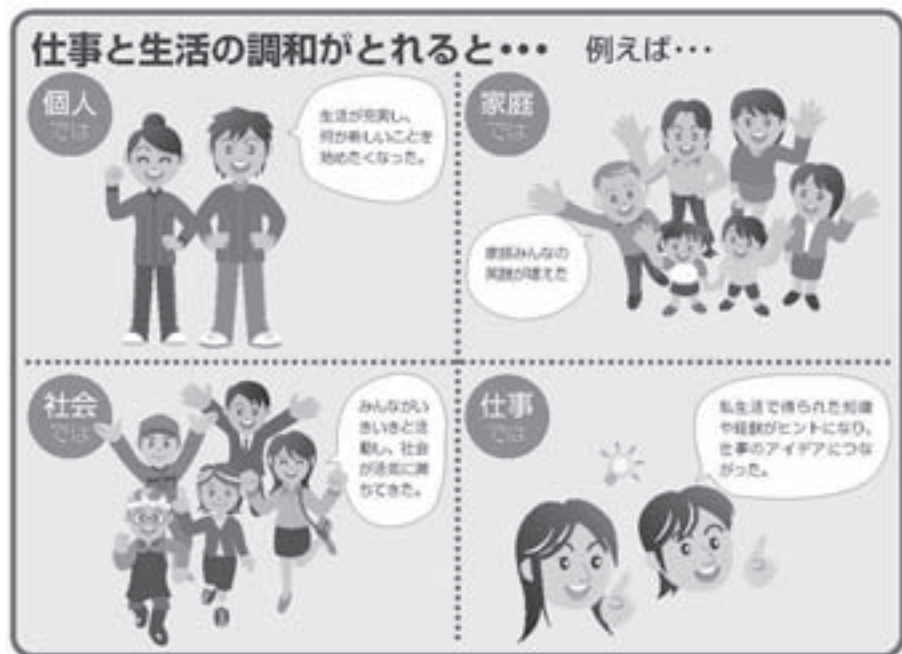
- ◆結婚している人で、「仕事と家事や私生活」が両立していると考えている人の方が、仕事の満足度が高い傾向にある。働き方を見直すということも大事だと感じる。

自分の人生をどう生きるか キーワードは、ワーク・ライフ・バランス

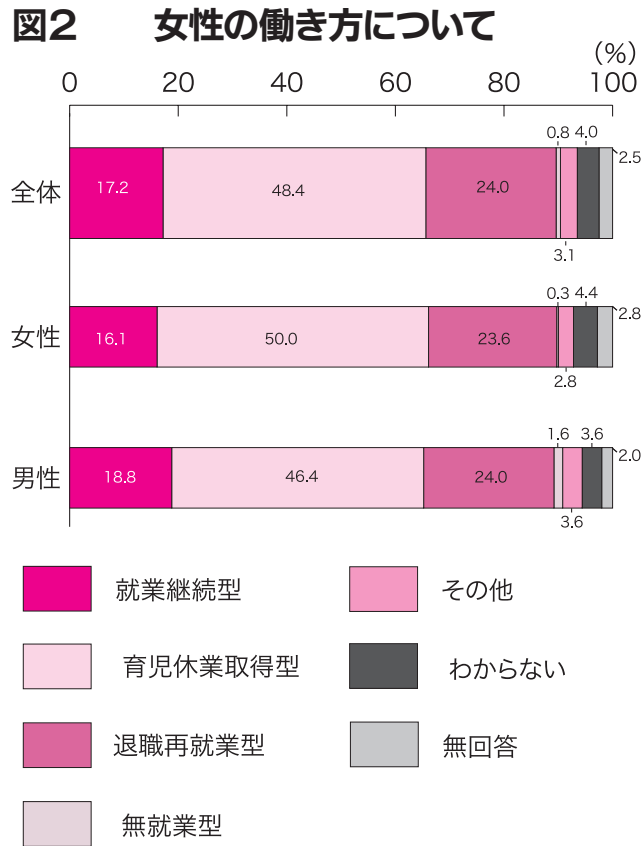
「ワーク・ライフ・バランス」という考え方は、仕事だけの生活を見直し、家庭生活や地域生活、趣味などの活動との調和をとるといふ考え方で、

ワーク・ライフ・バランスを考えることは、自分の人生をどう生きるかを考えることです。

時間はみんなに平等にあります。仕事の仕方や暮らし方の「常識」をちょっと見直してみませんか。



▲滋賀県男女共同参画課作成のチラシ（抜粋）



「女性の働き方について」という問いには、「育児休業取得型」がよい、という意見が最も多く寄せられました(図2)。

第1子誕生を機に、約7割の女性が退職しています。共働き家庭の人が多くなった現在ですが、一度仕事を辞めると、正社員での再就職は大変厳しい状況です。

調査では、退職するより育児休業を取得するほうがよい、という意見、また仕事と子育ての両立を

求める意見が多数でした。企業でも働き方の見直しや、家庭生活との両立を目指して、さまざまな取り組みを始めています。女性の人材活用は、経営戦略でもあるのです。

女性にとっても働きやすい会社は男性にとっても働きやすい会社であることはいうまでもありません。仕事と家庭との両立支援は、男性が育児や介護に関わることも可能にするでしょう。

女性の働き方について 最も多い意見は「育児休業型」

男女平等は憲法で保障されている権利ですが、賃金格差や性暴力の実態をみても、現在の日本は女性差別が存在します。

DV(ドメスティック・バイオレンス)配偶者からの暴力)やセクハラなどのほとんどが男性から女性への暴力です。また、同じ仕事をしていても、女性は男性に比べ、昇進や昇格が遅いという意見もありました。

一方で、働き盛りの男性の自殺者が多いのも日本の特徴です。こ

れは男性だけが一家の大黒柱として経済的負担を担い、男性は泣き言が許されないとといった「男らしさ」を求められているからではないでしょうか。

「男だから」「女のくせに」といった枠組みではなく、一人ひとりが自分自身の個性と能力を発揮できる選択ができるべきです。

男女が互いに認めあって、仕事や家庭での責任や喜びを分かち合い、対等な立場で社会に参画していくことを目指しましょう。

働きたくても子どもを預ける場所がなくて困っている人が大勢います。幼稚園の時間延長や、保育料の見直し、学童保育の拡大など子育て中の母親にも就職の道が開ける改革を望みます。(20代・女性)

少しずつながら、女性に対する働く環境が整備されつつあると感じています。少子高齢化社会に遅れをとらないように対策を考えてほしい。(40代・男性)

男女平等を目指しているがやはり社会は男性中心。産休・育休も一般企業では取得できないことが多い。復職しても続けづらい。制度を整えてほしい。(30代・女性)